

## 実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
倉敷市	玉島陶・玉島服部	令和4年3月25日	令和5年3月23日

### 1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	282.7ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	145.4ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	73.6ha
i うち後継者がいない農業者の耕作面積の合計	42.3ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	2.5ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	17.0ha
(備考)	

- 注1:③の「70才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。  
注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。  
注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。  
注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

### 2 対象地区の課題

アンケート回答者のうち70歳以上の農家が耕作する農地面積が約6割を占めており、高齢化による生産規模の縮小、離農の増加が予想される。  
新規就農者の確保が必要だが、新規就農者を受け入れるための農地(主に果樹園地)が不足している。  
灌水設備や農道が未整備の園地が多く、生産効率、安全性の面で整備が必要である。

注:「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

### 3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

玉島北園芸協会と連携し、水田から高収益作物(果樹)への畑地転換を推進し、まとまった園地確保による新規就農者の受け入れを促進する。主に協会員を中心経営体に位置づけ、農地の集積・集約化を進める。集積・集約化が難しい農地については農地の耕作放棄地化を防ぐために地域で協力し合い、市民農園の運営等の農地利用方法を検討する。

- 注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。  
注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

新規就農者の受け入れ

高齢農家の離農による産地規模の縮小を防ぐため、継続的な新規就農者の受け入れ態勢の強化を図る。  
新規就農者が研修後にすみやかに就農できるよう関係機関と連携し、園地の確保に取り組む。

基盤整備への取組

農業の生産効率の向上や中心経営体への農地の集積・集約化を図るため、穂井田地区において水田を畑地(園地)化する基盤整備に向けて地域の話合いを進めていく。

5 中心経営体

別紙のとおり